令和５年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　曽根　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和５年４月１８日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

⑴　全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

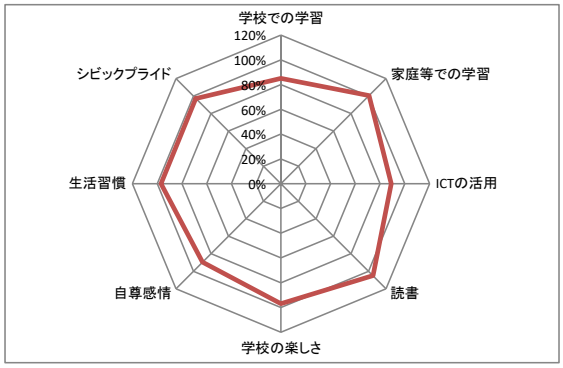
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

⑵　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な 傾向や特徴など	話すこと・聞くことの領域について正答率が高い。また、全国平均と比べて無回答の割合が少なく、最後まで自分の考えを書こうとする児童の割合が高い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	
	努力が必要な問題	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる	

算数	全体的な 傾向や特徴など	図形の領域については、他の領域よりも正答率が高い。しかし、全体的に、正答率が全国兵器よりも低くなっている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	
	努力が必要な問題	一の位が０の二つの２位数について、乗法の計算をすることができるかどうかをみる	

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○　家庭での学習の習慣が付いており、自分で計画を立てて勉強をすることができる。 ○　読書が好きだと思う児童の割合が高い。１日の読書時間が１時間を超えている児童が１５％を超えている。 ▲　児童の自尊感情が低い。自分によいところがあるという質問に肯定的な回答をした児童が、全国平均より１０％近く下回っている。 ▲　学校での学習習慣に課題がある。特に、自分で課題を見つけ、すすんで学ぼうとする姿勢をもつことに消極的な傾向がある。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

国語科は正答率が平均より高く、無回答の割合が少なかったことに対し、算数科では正答率が低く、無回答率の割合が全国平均よりも高くなっていた。算数科に対する学習意欲及び能力の向上が課題として挙げられる。ICT等を使って基礎的な知識を確実に習得し、応用的な問題に活用する方法を指導していく。

②　家庭生活習慣等に関する取組

自主学習等でも発展的な内容を自主的に取り組めるようにしていく。
また、睡眠時間が短い児童や、スマホ等の使用が長い児童へ生活習慣改善の声かけをしていく。